

苦行

これをしなかったら何か特別な力を得る気がする、というこ



とを考えた経験はありませんか。子どもの頃に、横断歩

道の白いところを踏まないとか、何かしらのルールを定

め、心身を痛めつけ、それを実行していくことを突き詰

めた人たちがインドにいました。そういった人たちが集

める苦行林もいくつかあったようです。

お釈迦様も、悟りを開かれる前に苦行をおこなわれま

した。その姿は仏像にもなっており、あばらが浮き出て、

頬はこけ、目はくぼんでいます。お釈迦様は、これでは

悟りは開けないと苦行を止めます。一緒にすごしてきた

伴は、墮落したと否定します。後に、お釈迦様が悟りを

開いた後に、この伴に初めて説法をします。これを初転

法輪といいます。

世の中には二つの極端がある。一つめは、欲と愛欲や

貪欲をよしとすることで、無意味で無益で

ある。二つめは、自分に苦難を味わわせる

ことは、苦痛であり、無意味で無益である。

こうして極端な道ではなく、中道をお説き

になるのです。



SDGSを言ひ、銀に
妹のひな飾りを
娘の為に飾る

九十九

こんなところに 仏教用語

身近な仏教用語を紹介しています。

救済

救済を仏教では「くさい」と読みます。読み方はかわり



ますが、意味は「すくい」です。仏教では何をもって救済というのでしょうか。

生まれ変わり生まれ変わり、迷いの世をまた生まれ変わる

ことから抜け出すことを解脱と言ひ仏教はそこを目指しまし

た。そのためには、苦しみを除かなければならない。苦しみを

除くには、執わることから離れなければならない。そのため

に出家をしていく道を初期の仏教は説いていました。

ところが、出家者を支える人々はどうなのだろうか。社会生活

をしなければならぬものもいます。経済活動をしなければ

生きてはいけません。こうした在家の人々がすくわれていく

仏教はないのだろうか、「大乘仏教」が興ります。日本に伝

わっているのはこちらの仏教です。

そして、自力的要素を捨て、自分の力では限界があり、さと

りを開くことは不可能である。弱い人間をすくうために

阿弥陀仏は立ち上がられたと、他力救済

の浄土真宗が開かれます。今年はその八

百年の年です。

